

問1 平安時代に発達した、日本独自の文化の特徴を説明した文として、適切なものはどれか。（2020年 埼玉県公立入試 類似）

- 漢字を簡略化したり変形させたりした仮名文字が工夫され、紀貫之らによる『古今和歌集』などの文学が盛んになった
- 雪舟によって大成された水墨画が、この時代の貴族たちの間でも好まれる芸術作品となった
- 書院造と呼ばれる建築様式が広まり、貴族の邸宅では畳を敷き詰めた部屋で連歌が楽しまれた
- 紫式部によって著された『源氏物語』は、当時の武士の生活や戦いの様子を生き生きと描いた物語として普及した

問2 平安時代末期、藤原氏が摂政や関白として権力を振るった「摂関政治」を抑える形で、白河天皇が退位後も「上皇」として引き続き政治の実権を握った政治形態を何と呼びますか。（2015年 富山県公立入試 類似）

- 院政
- 執権政治
- 親政
- 武家政治

問3 平安時代中期から後期にかけて、宇治の平等院鳳凰堂などの華麗な阿彌陀堂が建立された背景にある社会的な要因や信仰について、正しく述べたものはどれですか。（2022年 徳島公立入試 類似）

- 仏教の教えが衰える末法の世への不安から、阿彌陀如来にすがって極楽浄土への往生を願う浄土信仰が流行したため
- 武士の勢力が増大したため、力強さを象徴する禅宗の教えが幕府の保護を受けて各地に広まったため
- 遣唐使によってもたらされた最新の建築技術を誇示し、天皇中心の国家体制を維持しようとしたため
- 平氏による南都焼討で失われた寺院を復興させるため、重源が宋の建築様式を取り入れて再建を進めたため

問4 平安時代に流行した浄土信仰に関連して、当時の人々が行った活動や文化的な影響について説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2016年 鳥取公立入試 類似）

- 未来に仏の教えを伝えるため、教典を筒に入れて地中に埋める「経塚」が各地で作られた。
- 座禅によって自ら悟りを開く修行が重視され、武士の精神的な支柱となった。
- 国家の安定を願うため、聖武天皇の命により全国に国分寺や国分尼寺が建てられた。
- 法華経の教えを広めることで、戦国時代の京都において町衆が強い団結力を持った。

問5 日本の歴史における仏教寺院の立地について、最澄が建立した天台宗の本山である延暦寺の所在地を説明したものとして正しいものを選びなさい。（2021年 長野県公立入試 類似）

- 近畿地方の中央寄りに位置し、滋賀県と京都府の境界付近にある
- 関東地方の広大な平野の中に位置し、交通の要衝となっている
- 瀬戸内海から九州方面へ向かう海沿いの地域に位置している
- 東北地方の北部に位置し、当時の政治の中心地から遠く離れている

問6 平安時代中期、一条天皇の中宮定子に仕えた女性が、宮廷生活の体験や四季の移ろいに対する鋭い感性を書き記した作品があります。この作品は、自然の美しさや日常生活の興味深い出来事を「をかし」という美意識でつづった、日本を代表する随筆とされています。この作品の名称として正しいものはどれですか。（2025年 鹿児島公立入試 類似）

- 源氏物語
- 枕草子
- 土佐日記
- 更級日記

問7 平安時代中期に藤原道長らが行った「摂関政治」とはどのような仕組みか、その説明として最も適切なものを選択してください。（2017年 佐賀公立入試 類似）

- 自分の娘を天皇の后にし、その子（後の天皇）の外祖父（母方の祖父）となって、摂政や関白として実権を握る政治。
- 天皇が位を退いた後、上皇として「院」という役所を設置し、独自の役人や軍事力を用いて行う政治。
- 征夷大將軍として東北地方の蝦夷を平定し、その功績を背景に天皇に代わって全国を統治する政治。
- 有力な武士が政治の拠点として幕府を開き、御家人を組織して地方の荘園などを管理する政治。

問8 平安時代の政治状況について、ドイツ出身のエマさんと日本の高校生が会話をしています。この時代の地方政治の実態を説明する内容として正しいものはどれですか。（2023年 奈良公立入試 類似）

- 一部の有力な国司は受領と呼ばれ、任地に赴いて徴税に励む一方で、私的な蓄財を行うなど地方政治が混乱する要因となった。
- 国司は中央から派遣される役人であったが、この時期にすべて武士へと置き換わり、封建的な主従関係が確立した。
- 地方政治の乱れを解決するため、天皇が直接地方を統治する親政が始まり、国司制度は完全に廃止された。
- 全国の農村で二毛作が一般化し、経済的に豊かになった農民が国司の権限を代行するようになった。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 漢字を簡略化したり変形させたりした仮名文字が工夫され、紀貫之らによる『古今和歌集』などの文学が盛んになった	国風文化の時代には、日本語の音を表現するために漢字を崩した「平仮名」や、漢字の一部を取った「片仮名」が作られました。これにより、紀貫之らによる『古今和歌集』や、紫式部による『源氏物語』などの優れた仮名文学が数多く生み出されました。また、こうした物語の場面は、後に『源氏物語絵巻』などの絵巻物としても描かれました。
問2	答え 1 院政	1086年に白河天皇が位を幼い堀河天皇に譲った後、自身は「上皇」として政治を主導したことが始まりです。これにより、天皇の母方の親戚である藤原氏（摂関家）が政治を独占する状況を打破し、天皇中心の支配力を取り戻そうとする仕組みが形作られました。
問3	答え 1 仏教の教えが衰える末法の世への不安から、阿弥陀如来にすがって極楽浄土への往生を願う浄土信仰が流行したため	1052年は末法元年に当たるとされ、当時の人々は社会の混乱を末法の到来として恐れました。これに対し、阿弥陀如来を念じることで死後に救われるという浄土信仰が急速に普及し、藤原頼通による平等院鳳凰堂の建立もその一環として行われました。
問4	答え 1 未来に仏の教えを伝えるため、教典を筒に入れて地中に埋める「経塚」が各地で作られた。	浄土信仰の広まりとともに、伯耆一宮経塚のように教典を地中に保存する「経塚」が全国的に作られるようになりました。これは、末法の世において仏の教えが失われることを防ぎ、あわせて自身の極楽往生を願う当時の人々の切実な信仰心を表しています。
問5	答え 1 近畿地方の中央寄りに位置し、滋賀県と京都府の境界付近にある	延暦寺が置かれた比叡山は、広域的な地域区分では近畿地方に該当します。滋賀県と京都府の県境付近という、当時の都であった平安京から見て北東（鬼門）の方角に位置していたことが、この地に建立された歴史的な要因の一つです。
問6	答え 2 枕草子	清少納言によって執筆されたこの作品は、宮廷に仕えた才能ある女性の視点から、自然の情緒や人間関係、宮廷生活での出来事を自由な形式で記録したものです。平安時代の貴族社会の気風を今に伝える貴重な資料であり、日本最古の随筆の一つとしての地位を確立しています。同時期に活躍した紫式部の『源氏物語』が物語（フィクション）であるのに対し、作者の身の回りの出来事や感想を記した実録的な性質を持っています。
問7	答え 1 自分の娘を天皇の后にし、その子（後の天皇）の外祖父（母方の祖父）となつて、摂政や関白として実権を握る政治。	藤原氏は有力な貴族として、天皇が幼少のときは摂政、成人した後は関白という官職に就くことで政治を主導しました。この権力を維持するために、自分の娘を天皇に嫁がせ、その間に生まれた子を次の天皇にするという「外戚関係」が不可欠な要素でした。これは白河上皇が始めた「院政」や、後の「武家政治」とは明確に区別されます。
問8	答え 1 一部の有力な国司は受領と呼ばれ、任地に赴いて徴税に励む一方で、私的な蓄財を行うなど地方政治が混乱する要因となった。	平安時代の国司には、任地へ行かない遙任のほか、実際に任地に赴く「受領」もいました。受領は徴税の権限を強く持ち、私欲を肥やす者も多く現れたため、農民がその暴政を訴えるなど、地方政治の混乱が深刻化しました。武士の主従関係や二毛作の一般化は後の時代に見られる特徴です。